

中国四川省成都市における農産物直売所の特徴と今後の発展の課題 - 平価菜市を事例に - : 平成24年度資源環境経済学講座修士論文要旨

著者	劉 揚帆
雑誌名	農業経済研究報告
号	44
ページ	131
URL	http://hdl.handle.net/10097/56390

中国四川省成都市における農産物直売所の特徴と今後の展開の課題 —平価菜市を事例に—

A study on the characteristic and future development of farmer's direct
—sale shop in Chengdu Sichuan China: A case study of Pingjia Market

劉 揚帆（農業経営経済学分野）

【目的】中国四川省成都市において、農産物や食品の小売は自由市場と大型スーパーマーケットによって担われてきた。しかし、2000年から2010年までの10年間に成都市では政府から生活保障を受けて暮らす人が4.6倍にまで増加した。彼らの生活、特に食生活への負担を軽減するために、2011年2月に低価格で新鮮な野菜などを販売する農産物直売所“益民平価菜市”が登場した。本研究は、経済成長著しい中国都市部において、今後どのような農産物流通が望ましいのかを考察してみたいという問題意識のもとで、平価菜市を事例に取り上げ、農産物直売所の特徴と今後の展開の課題を明らかにする。

【方法】平価菜市の運営関係者に対してのヒアリング調査と平価菜市および近隣のスーパーマーケットを利用する消費者へのアンケート調査を行い、収集した情報やデータを分析するとともに、関連する“農超对接”の既存研究を参考にしながら、農産物直売所の特徴と今後の展開条件を整理する。

【分析結果】平価菜市の特徴は以下の通りである。

- 1) 複数の专业合作社を通じて多くの生産農家と繋がり、農産物の直売を実現した。
- 2) 流通における中間マージンの削減により低価格販売を実現し、低収入層の生活を支援している。また、生産農家の収入向上にも貢献している。
- 3) 专业合作社と契約を結ぶことで、平価菜市では人件費削減、生産農家にとっては買い叩きの回避と再生産可能価格を実現できた。
- 4) 生産農家が対面販売によって消費者と直接に話し合うことで、食の安心感を築き上げている。
- 5) “農超对接”では、专业合作社がスーパーマーケットに“入場料金”や“利用料”を支払わなければならないが、平価菜市では手数料（売上高の15%）だけの支払いで済むと共に、专业合作社にとっては出荷の安定性も確保できる。ただし、品揃えを充実させるために、专业合作社が卸売市場から商品を補充しなければならないといった問題が生じる場合もある。

【結論】成都市において、直売所が今後さらに展開していくために、以下の課題を解決する必要がある。

- 1) 自由市場やスーパーマーケットなど他の小売との価格競争を回避するために、どのような対策が必要か。
- 2) 生産農家の利益を犠牲にしないように、直売所向けに出荷している专业合作社間の価格競争をどう回避するのか。
- 3) 配送センターの利用やコールドチェーンの導入を考えるならば、その費用負担をどうするか。
- 4) 消費者の安心感を得るために、農薬などの使用等に関する情報提供をどうするか。
- 5) 官営直売所である平価菜市が、今後民間直売所の経営を妨げないようにするためにどのような法的規制が必要となるのか。